

# 人馬の営み 思いあふれる一曲

【浦河】馬産地とともに生きる馬と人の営みを歌った楽曲「まきばのうた」が誕生した。歌つのはシンガー・ソングライターでエッセイストの寺尾紗穂さん。コンセプトは、寺尾さんのファンでもある町上絵笛の軽種馬牧場「高村牧場」の高村はるかさん(43)が考えた。20日には、寺尾さんが町内で開くライブで披露する予定で、高村さんは「馬産地で生きる者の思いを寺尾さんの歌声から感じてほしい」と話している。

シンガー・ソングライター

## 寺尾紗穂さん「まきばのうた」

「道は運ぶよかなしみのせて 道はおくるよめぐる命を」。今年4月、高村さんの元に「まきばのうた」のデモ音源が届いた。寺尾さんの優しく澄んだ歌声に大粒の涙がこぼれた。「心の中に埋もれていた気持ちを、歌で見事に表現していて感動した」と振り返る。

寺尾さんは2007年発表のピアノ弾き語りのアルバム「御身」で広く知られるようになった。映画の主題歌やCM音楽の制作で活躍することにも、各地でライブを開いている。文筆活動でも、新聞や雑誌に多数のエッセーを連載する。

「まきばのうた」誕生のきっかけは、寺尾さんが今年3月に東京でライブを開くための資金を募ったクラウドファンディング。寄付者の希望を聞いて寺尾さんが作詞作曲し、プレゼントする歌が返礼品だった。

歌の題材は、牧場風景が沿道に広がる国道235号。馬を上場する競り市、診療所でのみどり、繁殖牝馬の購入などで馬を運ぶ際に必ず通る道だ。「馬との出会いや別れを受け入れる道で、希望や寂し

## 高村さん依頼、歌声に涙 20日浦河でライブ

さ、いろんな思いがこみ上げられる。そんなしみじみとした思いを歌で表現してもらいたかった」と高村さん。メールで寺尾さんに伝えると、しばらくしてデモ音源が届いた。

曲の完成後、寺尾さんから「(まきばのうたが)ずしんと胸に流れ続けています」とメールがあった。高村さんは「軽種馬産業に携わる人が大勢いる浦河なら、この曲に共感してくれる人も多いのでは」と思い、地元でのライブを打診。寺尾さんも快諾し、実現することになった。高村さんは「ゆっくりと優しい時間を過ごしてほしい」と話す。

寺尾さんのライブは午後1時から、浦河フレンド森のようちえん(東町かしわ4)で行われ、午前10時から書店や飲食店の出店も並ぶ。

前売り4千円、当日4500円。前売り、当日とも浦河町民3千円、高校生千円、中学生以下無料。前売りはパン店「ばんばかばん」(堺町東1)や大黒座(大通2)などで販売中。チケットの予約、問い合わせは高村さん、電話090・2450・0358へ。

(和田樹)



寺尾紗穂さんのライブイベントへの来場を呼び掛ける高村はるかさん